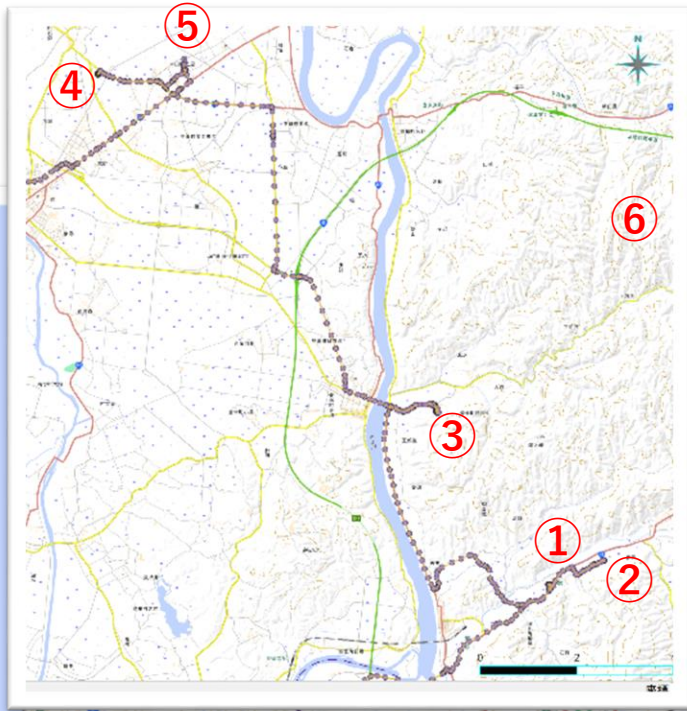


視察箇所位置図



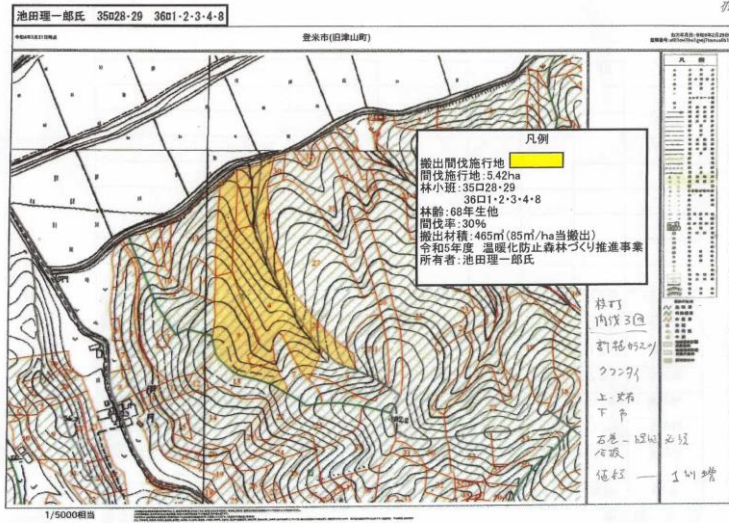
- ①集合場所（道の駅津山もくもくランド）②認証森林（登米市津山町横山）③太陽熱木材乾燥庫④JAみやぎ登米本店・なかだ支店⑤登米市役所中田庁舎⑥登米市森林公園⑦大崎市立図書館

1. 登米市の森林認証について (道の駅津山もくもくランド)



- ・登米市伊藤林業振興係長ほかから説明を受ける。森林認証は平成18年から。きっかけは、地域林業の生き残りを図るため。
- ・役所、林業団体、生産者、森林所有者が連携して、一体的なサプライチェーンを作って、地元産木材を利活用を行う。
- ・もくもくらんの建物は、床、壁、構造部材である柱、家具・遊具等、ほぼすべての部位に地元産木材（スギ）を使用。節のある部分も積極的に活用している。観光目的で訪れ、活動的な精神状態で利用する場所であることから、節ありの部材の方がむしろ適しているかもしれない。

2. 認証森林について (登米市津山町横山)



- ・ 津山町森林組合佐々木森林整備課長ほかから認証森林において説明を受ける。
- ・ 林齢68年生、樹高25m、直径30cmほどの林分で、これまで3回の間伐と適宜な枝打ちがなされている。節の少ない良質材が利用間伐により生産されている。
- ・ 認証木材は1割程度高値で販売でき、石巻合板など認証木材しか取引しない工場もある。

3. 太陽熱木材乾燥庫 (登米町森林組合プレカット工場)



● 太陽熱木材乾燥庫の原理

太陽熱木材乾燥庫は、「パッシブソーラーシステム」の技術を利用して、太陽熱を効率的に利用して大量の木材を乾燥しながらストックすることができます。

太陽熱集熱装置と、空気集熱のための送風機、その熱を搬送するためのダクトで構成されるシンプルなシステムですが、室温・外気温・集熱空気温度の3点を計測しながら最適な室内環境を制御プログラムでコントロールしています。

南側傾斜面のトタン板で外気を太陽熱で温めて乾燥した温風をつくる

乾燥した空気をファンで押し込むことで庫内をプラス圧に保つ。木材の水分は庫外に押し出す

頭上に設置した4枚の集熱パネルで倉庫上部の空気を暖めて循環

- ・登米町森林組合竹中理事兼参事ほかから施設について説明を受ける。
- ・地域内の木材を製材し、乾燥を本施設で行う。乾燥は太陽熱で温めた熱乾燥風を用いて行い、送風のみ電気を用いている。乾燥にかかる時間は、木材の状態や季節によっていろいろだが、一般的には数ヶ月程度。
- ・本施設は太陽光のみ使っているが、東松島の施設では、木質バイオマスの燃焼熱も利用している。

4. 地元産木材の建築への利活用 (JAみやぎ登米本店・なかだ支店)



- ・JAみやぎ登米岩崎経営企画課長ほかから施設について説明を受ける。
- ・地域内の木材（スギ）を活用。使用部位は柱、梁、腰板、格子等に活用。腰板と格子は節のない良質材を使用。柱と梁には多少節のあるものを使用。柱と梁は束ね柱、重ね肘木により強度と耐火性を確保。床材については、地域外のナラ材等も使用。
- ・空調はエアコンを使用しているが、1年を通して2階と1階の間で適切に空気を循環させることで、エネルギーロスを抑えている。

6. 登米市森林公園



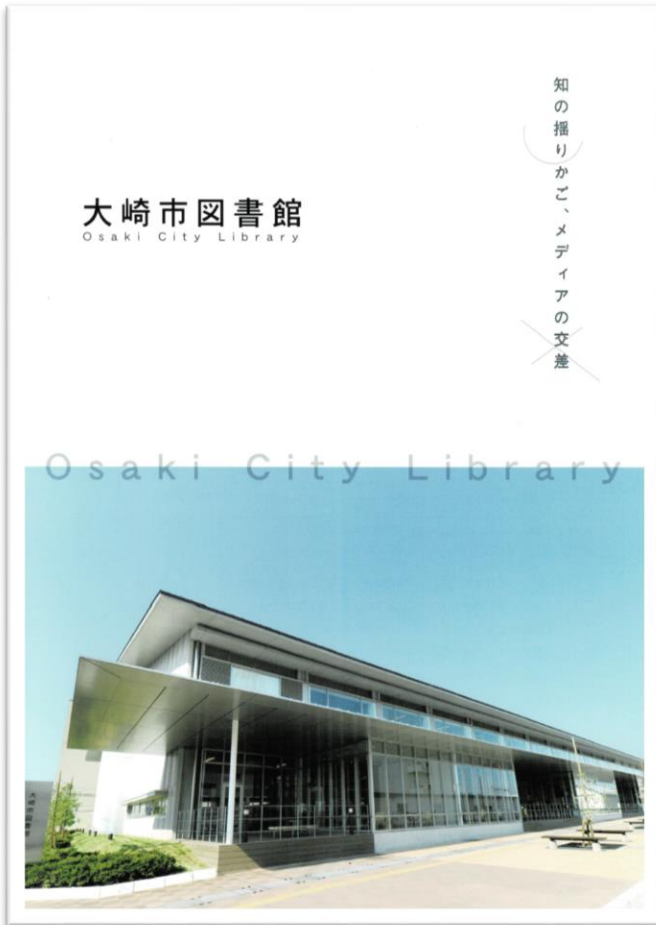
森林公園



セラピーロード

- ・森林公園の整備内用は初期の柳津森林公園とほぼ同じ。
- ・面積は柳津森林公園に比べて相当小さい。このため、森林や施設の管理がきめ細かく行われている。フィールドアスレチックも使える状態にあり、楽しく遊べる。
- ・セラピーロードも整備されている。
- ・使用状況については、シーズンオフのため、分からなかった。

7. 大崎市立図書館



- ・大崎市図書館 菅原淳子氏から施設について説明を受ける。
- ・地域内の木材（スギ）を活用。使用部位は床のほぼ全面、格子、エントランスの天井と壁、ほぼすべての書架等に活用。いずれも節のない良質材を使用。床にスギ材を使用していることに特徴があり、WPC加工という、木材の導管にプラスチックをしみこませる技術により、傷つきにくさと耐火性を確保している。
- ・床材は、147mmと幅広、落ち着いた雰囲気醸し出すため、節がなく、赤味の強くないものを使用。一方、書架は、赤味の強い部位を合板加工して、強度を持たせて活用。
- ・柱や梁等の構造部位には木材は使用していない（J A みやぎ登米社屋との違い）。